

広報 しばた

1

since1961
2018.JAN
No.675



「よいしょー」の元気な掛け声とともに餅をつく子どもたち。今年も、子どもからお年寄りまで笑顔あふれる一年となりますように。
【写真:12月13日(水)町立第一幼稚園】



子どもたちには「夢」を お年寄りには「安心」を 地域には「イノベーション」を

— 柴田町に住む一人一人の力で
未来を切り拓いていきましょう —

柴田町長 滝口 茂

新年明けましておめでと
うございます。

本格的な人口減少時代を
迎え、我が国においては、
様々なリスクが顕在化し、
言いようもない不安感に包
まれていきます。

特に地方においては、2
014年5月に発表された
“増田レポート”によって、
人口減少問題がクローズ
アップされ、これを契機に、
国は地方創生に全力で取り
組むことになりました。大
規模開発や企業誘致といっ
た外発型の地域振興政策か
ら人口減少時代を見越し、
交流人口の拡大によって人
をまちや地域に呼び込む内
発型の地域振興政策への転
換です。つまり、外部の力
に依存するのではなく、地
味ではありますが、じつと
りと自立型へと体質改善を
図る新たな地域活性化戦略
です。町も地方創生が謳わ
れて以来、「花のまち柴田」
のブランド化を独自の政策
として掲げ、観光地として

の魅力づくりや受け入れ体
制の整備、さらにプロモー
ション活動を展開してきま
した。

その結果、昨年の桜まつ
りには、外国人観光客専用
のバスを含め、234台の
観光バスが船岡城址公園に
乗り入れるとともに、2,5
00人余りの外国人観光客
の皆さんに、船岡城址公園
や白石川堤の一目千本桜の
お花見を堪能していただき
ました。また、特筆すべき
は、「花のまち柴田」の名声
が着実に高まったことも
あつてか、町を応援するふ
るさと納税に、想定を越え
た1億4,000万円余り
の寄付が集まったことです。
この勢いをさらに加速し、
今後も町が元気であり続け
るためには、短期的に訪れ
る交流人口の拡大にとどま
らず、定期的に何度も訪れ
るリピーターを増やし、特
産品を買ってくれたり、応
援寄付をしてくれる柴田町
のファンを拡大していく政





策が大変重要になります。人と人とのつながりをさらに強固なものにしていく取り組み、いわゆる「つながり人口」こそが、町の未来を切り拓く新たなキーワードになるのではないかと考えています。

今年、歴史や文化遺産、美しい農村景観や恵まれた自然環境など、町独自の特性や魅力を国内外に発信していくシティプロモーションやインバウンド^{※1}政策を進化させるとともに、行政サービスの質を高め、子どもからお年寄りまで、全ての人たちが安心して住み続けられるための重点政策5項目を掲げ、町政を推進して参ります。

シティプロモーションの推進

一つ目は、シティプロモーションによる人を呼び込む政策です。

国や県のインバウンド政策の本格化や、仙台空港の民営化による格安航空会社LCCの就航により、東北を訪れる外国人が飛躍的に増加し、その影響は町にも及んでいます。

多くの自治体や観光DMO^{※2}がプロモーション活動にしを削り、地域間競争が激しさを増す中で、「花のまち柴田」が多くの観光客に旅先として選んでもらえるようにするために、これまで以上の観光コンテンツの充実と、広域観光周遊ルートの整備が重要になってきます。

今年3月までに、船岡城址公園では、さくらの里のサンルームの増築や山頂売店の新築、原田甲斐・柴田外記記念碑を移設した歴史エリアの再整備、山頂バリアフリー園路の完成、さらに、白石川千桜公園においては、水路を横断する平橋が完成し、観光地としての魅力が格段と高まります。

また、宮城インバウンドDMO推進協議会や一般社団法人宮城インバウンドDMO、しばたの未来株式会社、柴田町商工会、柴田町観光物産協会などと連携して、仙南各地域の魅力をつなげたテーマ性、ストーリー性のある周遊ルートを整備し、シティプロモーションを通じて、国内外から人を呼び込んで参ります。

快適な環境づくり

二つ目は、緑豊かで賑わいあふれる公共空間の整備です。

町中に賑わいを創っていくためには、季節感溢れる公園や街路樹、水辺空間などのオープンスペースやスポーツ文化施設、活気ある商店街など、人と人が交わる交流拠点の整備が欠かせません。

こうした公共空間が整備

された中で、町民の皆さんによる自主運営のイベントやお祭り、音楽祭やスポーツの祭典、マルシェの開催などが頻繁に行われることによって、人と人との出会いや交流が生まれ、若者にとって楽しい雰囲気が出て、町に変貌していきけるのではないかと考えています。

今年も地方創生推進交付金や東北観光復興対策交付金などを活用し、花マルシェやうまいものマルシェ、まちゼミ^{※3}の開催、光のまちづくりライトアップ事業を通じて、交流人口やつながり人口を増やし、中心市街地や商店街の活性化を図って参ります。

また、都市の標準装備の一つである総合体育館の着手時期については、今年の12月までに明らかにするとともに、図書館の建設についてもロードマップを作成して参ります。

また、町営住宅3階建て4号棟については工事を発



注しましたので、計画最後の建物となる3階建て5号棟についても、建設に向けた準備を進めて参ります。

地域の魅力の創造

三つ目は、地域に稼ぐ力や地元力をつけることです。伝統や風物詩、農村風景や郷土食など、先人から受け継がれた宝物を住民自ら調べ、再発見したのが、「しばた百選」です。

今回再発見された資源に創意工夫を加え、地域の宝物として磨き上げ、地域外とのつながり人口を増やしている集落が、槻木の上川名地区です。自分たちの集落は自分たちで元気にしたいと意気込む自発的な取り組みは、さらに、濁酒（ぬまぶかし）の製造販売へと発展し、いわゆる集落ビジネスへと成長しようとしています。こうした地域での小さな

取り組みは、柴田町商工会女性部の「雨乞の極」の製造販売や入間田地区の有志による雨乞のゆずを使った商品開発へと波及しています。

また、新年早々、町で初めて法人化した営農組織が、「ぜいたく味噌」の製造販売の強化に向けて、作業所を新築することになりましたので、町も側面から支援して参ります。

さらに、フットパス全国大会を誘致し、「しばた百選」の魅力を全国に発信して参ります。

あくまで、地域づくりやまちづくりの主人公は、先人たちの暮らしぶりを今に受け継ぐ地元の住民です。外部の人材やまちづくりの専門家にはアドバイスを受けても決して依存せず、地元に住んでいるからこそその視点や発想で地元稼ぐ力をつけ、持続的な集落づくりになることを期待しています。

安心して暮らせるまちづくり

四つ目は、頻発する自然災害への取り組みや、地域の助け合いや支え合いの機能低下による、無縁化する社会への対応です。

柴田町は自然災害、特に水害については、阿武隈川と白石川が末端で合流するため、内水被害に見舞われるリスクが他の自治体より高くなっています。

昨年、局地冠水対策マニュアルを作成した剣水地区、槻木上町・下町地区、北船岡1丁目地区においては、早急に堤防のかさ上げや側溝整備、排水用の常設ポンプの設置を行った結果、10月23日の台風21号の襲来の際には、あまり大きな被害に見舞われずに済みほったところでした。

今年は、4月から専門的な知識と経験を有する地域防災マネージャーの配置を

検討し、ハード、ソフト両面からの総合的な防災・減災対策を一層強化して参ります。

地域福祉の面においては、高齢者の方々や子どもたちが安心して心豊かに暮らせるよう、地域包括ケアシステムを構築して参ります。また、家庭の経済状況に関わらず、子どもたちが自分の可能性を開花させ、未来を切り拓いていける力を培っていけるよう、子ども食堂などの居場所づくりや放課後先生による学習支援を盛り込んだ、子どもの貧困対策整備計画を策定し、子どもの貧困の連鎖を断ち切って参ります。

また、待機児童の解消に向けては、今年の4月から新田地区に民間の小規模保育園が開所します。さらに、平成31年4月を目標に、槻木地区へも小規模保育園を誘致して参ります。



教育・子育て環境の充実

五つ目は、未来を担う子どもたちが、自分の可能性を自分の力で切り拓いていく力を養っていく学びの場である学校環境の整備です。今年、東船岡小学校の大規模改修、船岡中学校の暖房機のFF式化、さらに全校にLANを整備しIT時代に強い子どもたちを育てて参ります。

また、グローバル化時代の中にあつて、国際化に対応できる子どもたちを育てるために、放課後英語交流をより一層充実させて参ります。さらに、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、ベラルーシ共和国の新体操ナショナルチームのホストタウンに選ばれましたので、今後ナショナルチームと子どもたちの交流を通じて、世界と

繋がる子どもたちの育成に力を入れて参ります。

また、4月に柴田小学校内に放課後児童クラブを新設するとともに、平成31年4月からは、各放課後児童クラブにおいて1年生から6年生までの受け入れ体制を整備し、安心して子育て・子育てができる環境を整備して参ります。

人口減少が避けられない縮小社会を迎えた今、より豊かに、安心して暮らすことができる柴田町をどのようにして築いていくか、私たちの力量が試される時です。

明るい未来を手にするには、まず、地域に愛着と誇りを持つている地域住民が立ち上がり、「少しでも住みよい町に変えていきたい」、「自らの地域の良さをアピールしたい」と行動するところから始まります。なぜなら、地元に住んで

いるからこそ、自分のまちや地域が置かれている現状をしつかりと見据えることができますし、町の外に住んでいては気づかない地域のおみや魅力を語る事ができるからです。

さらに、今後のまちづくりにおいては、地元住民だけではなく、通勤している他の町の人や企業、NPO、専門家など、ともに地域課題の解決に向けて一緒に地域イノベーション※4を起こしていくことも重要になってきます。

我々自治体も、地域が大きな曲がり角に立っている今だからこそ、社会改革の好機と捉え、新たな発想と住民との協働、さらにそれを裏付ける財務体質の改善を図りながら、役所文化のイノベーションに努めて参ります。

私も柴田町のイノベーションに向けて、まちづくりに関わる意欲的な町民や柴田町を応援したい人を増

やすしくみづくりに全力を挙げて参ります。

今年「子どもたちには夢を」、「お年寄りには安心を」、そして「地域にはイノベーションを」をスローガンに掲げ、柴田町に住んでいることを誇りに思えるまちづくりに向けて全力投球して参ります。

改めて、柴田町の未来への責任、将来世代への責任を果たしていくのが、行政のトップとしての私の使命ではないかと意を強くしているところです。

今年もよろしくお願いいたします。

※1…インバウンド：訪日外国人旅行者。

※2…DMO…Destination Management Organizationの略。地域の観光資源に精通し、地域と協同して観光地域づくりを行う法人。

※3…まちゼミ…得する街のゼミナールの通称。商店主が講師となつて、専門知識やプロならではのコツを教えるゼミ。

※4…イノベーション…社会に変化を起こすこと。革新。

2018年 新しい年を 迎えて

町民の皆さんの 新年の抱負

毎週木曜日、年齢は様々ですが歌うことが大好きな仲間が槻木生涯学習センターに集まります。

先生の凛とした掛け声と指揮、そして弾けるようなピアノの伴奏で快い緊張がスタートします。皆さんで歌う楽しさは格別です。この時だけは、すべてのストレスから開放されます。

昨年12月のえずこコンサートで、多くの方からいただいた「楽しかったよ」、「感動したよ」の言葉を励みに、さらに良いコンサートができるよう、今年も合唱団の仲間と歌を楽しみながら頑張っていきたいと思います。



さくら混声合唱団
米野 正憲さん
(槻木地区・64歳)

私が交通指導隊に入隊したのは昨年7月です。きっかけは、柴小小学区で入隊する人がおらず、役場、地区からの強い要請もあり、我が子もお世話になったことから入隊を決意しました。



柴田町交通指導隊員 平間 秀夫さん
(成田地区・65歳)

3ヶ月間の班長、副隊長の厳しい現場指導を受け、現在子どもたちや歩行者の安全を守っています。今年も身体に気をつけて、子どもたち、歩行者の安全を守って行きたいと思います。

小学校3年生からバスケットボールをしています。今年の目標は強い気持ちで最後まであきらめないことと、最上級生としてチームを盛り上げて県大会に出場することです。

また、バスケットボールできたえた持久力を武器に、陸上競技(マラソン)でも自己ベスト更新、上位入賞を目指していきたいです。



槻木小学校5年生
小池 あおいさん
(槻木地区・11歳)



ダンベルサークル「朝の会」
小丸 富美子さん
(西船迫地区・79歳)

私は12年前にダンベル体操という宝物に出会いました。そこから私の世界が広がり、ダンベルを通して友だちと仲間がたくさん出来ました。私の地区でも「朝の会」という20人のダンベルサークルを立ち上げて13年目を迎えました。毎朝6時から90分の運動で1日が始まります。

今年も昨年以上の情報を取り入れて365日休まず取り組んでいきたいです。自分の健康のためにも！



農業 庄司 大輔さん
(中名生地区・30歳)

一昨年の春に新規就農をさせていただき、中名生地区で水稲と畑作の専業農家をしています。野菜は主につるむらさきとつぼみ菜を作っています。

今年も身体に気をつけて、しっかり知識と技術を身につけ努力を怠れずに新鮮で美味しい作物を育てられるように頑張りたいと思います。消防団にも入っているので、これからも地域活動に貢献していきたいです。



日本語がたいへん上手なグエンキム コック
サンさん
原稿を「自身の手で日本語で書いてくれました。

私はベトナム出身で、昨年10月から
実習生として日本に来ました。
今、古川工業株式会社に勤めています。当社は
良くて大きな会社です。ここで色々な技術
技術を学んだり、新実験をやり
経験や身につけています。
お仕事の中では同僚や上司に
相談出来ます。特に皆にお手伝い
をもらいました。ありがとうございました。
3年後、帰国して日本で知識や技
術をうまく運用し、年末年始
に良いことが来るのを楽しみにしています。

グエンキム コック サン



古川工業株式会社
グエンキム コック サンさん
(船岡地区・26歳)

私はベトナム出身
です。一昨年10月
から実習生として日
本に来ました。今、
古川工業株式会社船
岡工場で働いていま
す。当社は、良くて
大きな会社です。こ
こで色々な技術を学
んだり、新しい実験

を行ったりして経験を身につけています。
お仕事の中では、同僚や上司に相談出来ます。特に皆
んなにお手伝いをもらいました。ありがとうございます。
来年帰国して、日本で学んだ知識をうまく運用します。
今年、良いことが来るのを楽しみにしています。



柴田高等学校2年生 ^{たける}金澤 武さん
(槻木地区・17歳)

柴田高校の囲碁将棋部の部長
をしています。
昨年は大会に参加する部員が全
くいなかったため、今年は大会
に参加して欲しいと思っています。

学業の方では、
平均80点はもちろんのこと、平均90点以上を目指し
て日々の学問に励んでいきたいです。
今年、いよいよ3年生になるため、最上級生として
の自覚をもち、後悔のないように高校生活を謳歌したい
と思います。



俳句「虹の会」
^{せいじ}鎌形 清司さん
(船岡地区・78歳)

俳句は「自分史」だとも
言われています。後に自分
の作った句を振り返って見
ると写真や日記とは一味
違った人生が浮かび上がっ
てくるそうです。短詩なの
で、使う言葉は無駄のない
よう心がけています。「良い、
佳い、善い、好い」など、
どの字を使うか迷うことも
あります。

今年、自然を深く見て作
句をしたいと思っています。
※毎月第3土曜日13時30分からしばたの郷土館研修室
で句会を行っています。



仙台管区气象台 加茂 祐一さん(中名生地区・41歳)

仙台管区气象台で週間天気予報を担当しています。
いつも「予報を当てたい」と思っていますが、残念な
結果になることもしばしばです。
昨年は夏の天候不順が記憶に新しいですが、予報の
的中率も下がってしまいました。今年こそは、天候に
左右されず的中率を維持できるように頑張りたいと思
います。
また、昨年は地域の子もたちが通う小学校のPT
A活動に力を入れてきました。今年子どもたちだけ
でなく、保護者の皆様、地域の皆様にも楽しんでもら
えるような活動に取り組みたいと思います。



船岡中学校2年生
^{たいが}高橋 大我さん
(船岡地区・14歳)

この度、生徒会長になりま
した高橋大我です。私は、船
岡中学校生徒会長として頑張
りたいことが二つあります。
一つ目は学校のあいさつを
増やすことです。あいさつを
増やすことで、みんなが気持
ち良く過ごせるようにしたい
です。
二つ目は、学校行事を楽し
くすることです。行事をみん
なで楽しめるようにしたいです。
最後になりましたが、一年間船中を良い学校にできる
よう頑張りたいと思います。

しばたの冬を彩るイルミネーション

冬の風物詩イルミネーション。私たちを魅了し、温かい気持ちにしてくれます。



Shibata Fantasy Illumination 2017



期間／12月2日(土)～28日(木)

場所／JR船岡駅前～船岡城址公園

JR船岡駅から船岡城址公園まで、温かく幻想的な光で包まれます。



メタセコイアの奇跡！ 光り輝け槻木駅 2017



期間／12月9日(土)～1月7日(日)
場所／JR槻木駅前
13回目を迎えた槻木駅前のイルミネーション。
家路に向かう人たちの心を和ませてくれます。



とみざわ希望の光イルミネーション

期間／11月25日(土)～1月5日(金)
場所／富沢集会所
4回目を迎え、すっかり富沢地区の
冬の風物詩になりました。
集会所を色とりどりの光が包みます。



まちかど NEWS



隅々まで丁寧に掃除していました

「槻木駅と周辺を明るくする会」の清掃活動

11月22日(水)、「槻木駅と周辺を明るくする会」の皆さんが、毎年定期的に行っている環境美化活動の一環として、駅構内の清掃と駅西口広場の落葉拾いを行いました。

当日は15人が参加し、会の立ち上げ時から活動している高橋敏晴(としかは)さんは「約16年前から行っています。会員の高齢化が進んでいます。活動が出来るうちは続けていきたいと思えます」と頼もしく話してくれました。



大量の落葉があつという間に集まりました

NEWS 柴田小学校開校60周年記念式典

11月12日(日)、柴田小学校で「開校60周年記念式典」が行われました。来賓、教職員、児童、保護者などが参加して60周年の節目を祝い、児童による柴田小学校のあゆみを振り返るスライドの上映や合唱などが行われました。

児童を代表して菅井友愛(ゆあ)さん(6年)が、「自然豊かな柴田小学校が大好きです。これから10年後も20年後も学校が続いてほしいです。柴田小学校60歳おめでとう」と述べました。



児童、教職員全員で「歌よ ありがとう」を合唱しました



寄附金で山頂の園路に明かりが灯ります

寄附ありがとうございました

11月7日(火)、笠松電気株式会社から町に100万円の寄附がありました。

笠松幸一代表取締役から、「船岡城址公園の照明工事に役立てていただきありがとうございます」と手渡されると、滝口町長は、「たいへんありがとうございました。船岡城址公園のスロープカーの山頂側乗り場から里山ガーデンハウス、山頂売店へと続く園路の照明工事に活用することができればと思います」と話し、寄附を受け取りました。

広 告

広 告

100歳を笑顔でお祝い

NEWS

11月30日(木)、太田まもるさん(槻木地区)が満100歳を迎えられ、しばた協同デイサービスセンター(船岡新栄地区)で、ご家族やデイサービスセンターの皆さんが長寿をお祝いしました。



お誕生ケーキを皆さんでいただきました

船迫小学校の暖房設備が新しくなりました

NEWS

12月15日(金)、船迫小学校の児童と先生が、船迫小学校の大規模改造工事が完了し、校舎内の暖房設備が新しくなったことへのお礼を伝えるに役場を訪れました。

6年生の加藤優弥さんと佐藤琉菜さんが町長にお礼の手紙を手渡し、加藤さんは、「これから入学する子たちもずっと使えるよう、丁寧に扱いたいです」、佐藤さんは、「とても快適に過ごせています」と話してくれました。



子どもたちのため、快適な学習環境を整えます



記念事業として生徒・同窓会で作った新しい木彫りの「校歌板」が披露されました

船迫中学校創立30周年記念式典

11月18日(土)、船迫中学校で「創立30周年記念式典」が挙行されました。

生徒を代表して板橋亜美さん(3年)が、「船迫中学校に受け継がれてきた『3V精神(VISION(夢)・VITALITY(活力)・VICTORY(勝利))を心に刻み、未来に向かって歩んでいきます」と述べました。

その後、「生徒の手による式典」も行われ、「20年後の迫中生へ」と題して各クラスで作成したメッセージビデオの上映や、全校合唱などが行われ、創立30周年を盛大に祝いました。



4年生55人が11のグループに分かれて発表しました

交通安全を再認識「交通安全マップ発表会」

12月1日(金)、船迫小学校の4年生が、自分たちで作った交通安全マップを保護者や地域の皆さんにお披露目しました。

このマップは、子どもたちが、通い慣れた通学路の危険な場所を調べて交通安全アドバイザーの指導のもと地図にまとめたものです。

子どもたちは、「危険な場所がたくさんあることが分かった」、「交差点での左右の確認をしっかりしていきたい」など、改めて交通安全に対する意識を高めていました。

広告

広告

東船岡小学校6年生から 町長あての年賀状が 届きました



昨年8月に、校舎内のトイレが全て洋
式化し、新品に生まれ変わったことへ
のお礼の年賀状をいただきました。



広 告

広 告



Handwritten Japanese text on a white background, featuring several small cartoon dog icons. The text is organized into several rectangular boxes with colorful borders. The content includes various messages and names, such as '高橋 裕也' and '小林 詩乃'.

Handwritten Japanese text on a white background, featuring several small cartoon dog icons. The text is organized into several rectangular boxes with colorful borders. The content includes various messages and names, such as '山口 亮四郎' and '山口 亮四郎'.

Handwritten Japanese text on a white background, featuring several small cartoon dog icons. The text is organized into several rectangular boxes with colorful borders. The content includes various messages and names, such as '高橋 裕也' and '高橋 裕也'.

HAPPY NEW YEAR 2018

Handwritten Japanese text on a white background, featuring several small cartoon dog icons. The text is organized into several rectangular boxes with colorful borders. The content includes various messages and names, such as '山口 亮四郎' and '山口 亮四郎'.

本年もよろしくお願いたします。

広 告

広 告

俳句

門のみを残す本陣初時雨
 下名生 笠松ふみ子
 晩秋に落葉の嵐冬間近
 西船迫 下浦 智子
 大歩危や碧水砕け崖紅葉
 船岡 可沼 妙子
 霊山や岩さむぎむと敷紅葉
 西船迫 安ヶ平奈津枝
 猫遊ぶ落葉の上の陽の中で
 船岡 安藤 節子
 小正月女房いそく紅をさし
 葦神 葛
 初鳴きや星の殖えゐる西の空
 石母田星人

冬銀河やがて五線紙揺らぎ出す
 鈴木 三山
 どの道を行くも果てある冬桜
 鈴木 幸子
 太棹の残響春の立ちにけり
 鈴木 幸子
 弾初のやがて大河となる予感
 鈴木 清子
 中天へ亀裂はしるや冬の鴉
 鈴木 清子
 捨てがたき文机かな月凍る
 鎌形 清司
 北斎の波の底ひの山眠る
 小島 米子
 齋藤 善則

短歌

碧色の四万十川のゆるるりと
 船は客乗せ沈下橋くぐる
 船岡 可沼 妙子
 脳活に「小六」問題解いてみる
 船岡 伊藤タイ子
 女孫の採点花丸嬉し
 船岡 伊藤タイ子
 この冬も「よいしよよいしよ」で雪たるま
 鼻水流し笑顔の孫よ
 本船迫 森田 真六

庭にある「夢乙女」という小さき薔薇
 春待ち侘びて共に生きたし
 船岡 沢田 順子
 平成や民草の心知らずして
 近視のごとく政治語らん
 大槻 信吉

川柳

寒なのに微笑んでいるカーネーション
 船岡 阿部美代子
 相撲ファン潔くなく落胆し
 西船迫 安ヶ平良三
 スーパーが少し遠くてちようどいい
 船岡 小林 夢子
 また一人モンゴル力士が去ってゆく
 西船迫 渡辺 晴江

枯葉おち虫の布団ができあがり
 榎木 村上 紫寿
 初夢やトランプと金さん握手する
 西船迫 舟廻めぐる
 枯葉散るガサカサ音が冬を呼ぶ
 榎木 つきのき町子
 免許証返納しての淋しかな
 榎木 大宮 二郎

※お詫びと訂正 広報しばた12月号10ページに掲載した「こうほう文芸」の俳句文の表記に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

【正】 冬温し受話器に響く父の声 中野西範子

俳句・川柳・短歌に興味があり、こうほう文芸に載せたい方は、はがきなどで1月10日(水)までご応募ください。 図 まちづくり政策課 ☎54-2111

平成30年1月18日から

問税務課 ☎55-2116

原動機付自転車ご当地ナンバープレートの交付を開始します

1月18日(木)から、町オリジナルの原動機付自転車標識(ナンバープレート)の交付を開始します。「花のまち柴田」の魅力を表現し、町のイベントなどで大活躍の花のまちイメージキャラクター「はなみちゃん」をデザインしたものとなっています。従来のナンバープレートから1回に限り無料で交換することもできます。



【対象車種】



原動機付自転車第1種
50cc以下



原動機付自転車第2種乙
50cc超90cc以下



原動機付自転車第2種甲
90cc超125cc以下

【交付に必要な書類など】

- 新たに登録する場合…印鑑、免許証など本人確認できるもの、原動機付自転車の販売証明書または譲渡証明書
- 従来のナンバープレートと交換する場合…印鑑、旧ナンバープレート、標識交付証明書

【交付窓口】 税務課、町民環境課、榎木事務所

※ナンバープレートを交換すると番号が変わるため、自賠責保険などの変更手続きが発生します。事前に保険会社などへのご確認をお願いします。
 ※ナンバープレートの希望番号は指定できません。交付は受け付け順になります。



柴田町の 記憶 をたどって

昔から伝わるお正月の遊び。
地区ごとに様々な行事が行われてきました。



「ジャンボかるた」は子どもたちの手作りです。
昭和59年、船迫地区子ども会「かるた大会」



「たこたこ上かれ、天まで上かれ」
昭和63年、中名生子ども会「凧あげ大会」

こども美術館



「校庭にある1本の木」(絵)



船迫小学校5年

前元 理子 さん



「大光院」(絵)



船迫小学校6年

成松 優希 さん

広 告

広 告

広 告

広 告

Vol.51
思いを
胸に

『知識と技術を身につけたい』

町内で働く若い世代の方の思いや夢などを紹介するコーナーです。



筆筒に引き出しを取り付ける高橋さん

みちのく工芸

高橋 大さん(35歳)
たかはし だい

昭和63年の創業以来、手仕事にこだわった特注家具を作り続けているみちのく工芸。国の伝統工芸品にも指定されている仙台筆筒などの特注家具の製造・販売や修理のほか、商業施設や病院のカウンター、椅子などの「仕器」を作る仕事も多く手掛けています。JR東北新幹線くりこま高原駅や東京駅、仙台国際空港の仕器、また、竹駒神社(石沼市)の賽銭箱もみちのく工芸が手掛けた仕事です。

今回は、入社2年目の高橋大さんを紹介합니다。絵を描くことやものづくりが好きなきな高橋さんは、芸術系の大学を卒業後、放送局でテレビ番組に使用する画像やテロップの制作やアニメーターのアシスタント、自分で描いた油絵の販売など様々な仕事をしてきたそうです。2年前にご実家のある仙台市に戻り、平成28年6月にみちのく工芸に入社しました。仕事の注文を受けてからの材料の調達や図面の確認、スケジュール調整などを行う「営業」の役割をこなすと同時に、製造の仕事も行っています。

「社長からは、技術が大事なのは当然として、仕事の効率やその作業の持つ意味、また、仕事に対する姿勢や意識が大切だと教わっています。そして、ものづくりを行う会社として『いかにして生き残っていくか』というのを常に考えなさいと言われるています。作業の意味ややり方を理解し

て、身についたと実感できたときが、一番仕事を面白いと感じる瞬間です」と話してくれました。

また、仕事をする上で苦労されている点を伺うと、「時間に追われるのが一番大変なところですね。もっと仕事に関する知識や技術を身につけて、社長の理想に近づいていきたいです」と話す高橋さん。趣味は以前から描いている油絵と海釣りだそうです。

伝統のものづくりを支え、未来に伝えていく職人としてこれからも頑張ってください。

みちのく工芸

柴田町大字上川名字館山67-1 TEL 0224-56-6677



昭和63年設立。平成11年に船岡の工業団地から上川名地区に移転し、現在に至る。「仙台筆筒協同組合」に加盟し、仙台筆筒など特注家具の製造・販売、修理を手掛ける。従業員5人。

人口と世帯数
(平成29年12月1日現在)



38,020人
(前月比23人減)



19,006人
(前月比6人減)



19,014人
(前月比17人減)



15,606世帯
(前月比1世帯減)

※平成24年7月9日の住民基本台帳法の改正に伴い、外国人を含む人口と世帯数となります。